

授業科目	健康政策論Ⅰ Health Policy Ⅰ	担当教員	小川 克子、武澤 千尋、川口 桂嗣、 近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	公衆衛生看護展開論で学んだコミュニティの地域アセスメントから健康課題の明確化と構造化、対策の検討、事業計画立案、評価に必要な理論と知識や、保健医療福祉行政論で学習した保健医療福祉行政の理念及び仕組み、政策提起に必要な知識を踏まえた上で、地域の健康課題の解決や健康の保持増進のための政策形成過程を学ぶ。また、モデル地域を対象として新たな社会資源の開発、地域ケアシステム構築についての演習を行い、政策形成に必要な技術と方法を学ぶ。		
到達目標	1.地域の健康課題や健康の保持増進のための政策形成における基本的知識を習得する。 2.地域に不足している社会資源の開発のための公衆衛生看護活動を理解する。 3.地域ケアシステム形成における基本的知識を学び、構築のためのプロセスと持続可能なシステムづくりのための公衆衛生看護活動を理解する。		
関連科目	公衆衛生看護展開論、地域看護学概論、保健医療福祉行政論、社会福祉論		
テキスト	標美奈子他「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」(医学書院) 中村裕美子他「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 岸恵美子他編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」(メヂカルフレンド社)		
参考書	秋吉貴雄他「公共政策学の基礎」(有斐閣)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	60	
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	30	
その他			
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義までに保健医療福祉行政論、公衆衛生看護展開論を復習しましょう。 ・演習は、公衆衛生看護実習や実習後の演習につながるものです。積極的に参加しましょう。 ・疑問点は先延ばしにせず、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。 		
課題に対するフィードバックの方法	地域の健康課題に対する政策形成過程を演習を通して学ぶため、毎回の演習の実施状況について振り返り、評価し、次回までの課題を示し、事後・事前学習で取り組めるように説明する。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、行政保健師活動の経験を織り交ぜながら、地域の健康課題に対する政策形成過程を理解するために必要な知識を理解しやすいように講義・演習を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (小川)	地域の健康課題に対する政策形成過程の基礎知識	1.政策とは 2.国の政策策定過程 3.地方自治体における政策・施策化・事業化	事前：授業内容をテキストで予習する(1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学修内容を復習する(2時間)。
2 (小川)	地域の健康課題に対する政策形成過程の実際	地域包括ケアシステムと政策形成過程	事前：前回の授業内容を確認する(1時間)。 事後：授業中に提示された事例からの学びを整理する(2時間)。
3 (小川)	社会資源開発における公衆衛生看護活動	1.地域の保健医療福祉資源の開発 2.関係者の確定と調整 3.ネットワークと調整	事前：授業内容をテキストで予習する(1時間)。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学修内容を復習する(2時間)。
4 (小川)	地域ケアシステムの構築と公衆衛生看護活動	1.地域ケアシステムとは 2.地域ケアシステムが発展するプロセス 3.地域ケアシステムの構築に必要な要素 4.地域ケアシステム形成の評価とモニタリング	事前・授業内容をテキストで予習する(1時間)。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し修正する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (小川)	地域の健康課題解決のための地域ケアシステム形成の実態	活動事例の紹介とグループワーク	事前：事業内容とテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し修正する（2時間）
6 (全担当 教員)	政策形成過程演習①	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。	事前：1～5回目の講義内容を復習する(1時間)。 事後：グループワークの内容を振り返り、必要な情報提供を行い、次の演習に備える(2時間)。
7 (全担当 教員)	政策形成過程演習②	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。	事前：個人で課題に取り組む(1時間)。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足、修正を行う（2時間）。
8 (全担当 教員)	政策形成過程演習③	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。	事前：個人で課題に取り組む(1時間)。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足、修正を行う（2時間）。
9 (全担当 教員)	政策形成過程演習④	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。	事前：個人で課題に取り組む(1時間)。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足、修正を行う（2時間）。
10 (全担当 教員)	政策形成過程演習⑤	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。	事前：個人で課題に取り組む(1時間)。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足、修正を行う（2時間）。
11 (全担当 教員)	政策形成過程演習⑥	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。	事前：個人で課題に取り組む(1時間)。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足、修正を行う（2時間）。
12 (全担当 教員)	政策形成過程演習⑦	課題発表に向けた準備を行う。	事前：グループの発表内容を確認する（1時間）。 事後：発表練習を行う（2時間）。
13-14 (全担当 教員)	政策形成過程演習⑧⑨	課題発表	事前：発表練習を行う（2時間）。 事後：発表の振り返りを行い、学びを整理する（2時間）。
15 (小川)	演習についてのまとめ	発表からの学びを整理し、実習に向けた課題を整理する。	事前：発表からの学びを整理し講義に持参する(1時間)。 事後：科目での学びについてレポートを作成する（2時間）。

授業科目	健康政策論Ⅱ Health Policy Ⅱ	担当教員	近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子 川口 桂嗣
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	健康政策論Ⅰで学修した政策形成に必要な知識・技術・方法を踏まえ、新たな社会資源の開発や地域ケアシステムの構築などの政策が、実際にどの様に形成されているのかについて、公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱで体験したことを基に考察し、政策形成における保健師の役割を学ぶ。さらに地域住民や関係者と協働して健康課題に対応することの重要性を学ぶ。		
到達目標	1.実習地域で検討した健康課題に対応する対策を検討し、地域ケアシステム構築の必要性を理解する。 2.健康課題に対する事業計画の立案を通して、地域ケアシステム構築のプロセスを理解する。 3.地域ケアシステム構築には、地域住民・関係者の参画が不可欠であることを理解する。 4.地域住民や関係者の参画・協働のプロセスについて理解する。 5.事業計画の立案を通して、地域ケアシステム構築における保健師の役割を理解する。		
関連科目	公衆衛生看護展開論、健康政策論Ⅰ、公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱが関連科目である。		
テキスト	標美奈子他「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」(医学書院) 中村裕美子他「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 岸恵美子他編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」(メヂカルフレンド社)		
参考書	秋吉貴雄他「公共政策学の基礎」(有斐閣)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点
	試験		・提出物(90点):地域ケアシステム構築のプロセスを踏まえて立案した事業計画の成果を基に評価します。 ・レポート(10点):演習終了後に本科目の学びをレポートとして提出してもらい、到達目標の達成度を評価します。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	90	
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業までに健康政策論Ⅰでの学びを復習してください。また公衆衛生看護実習Ⅰ・Ⅱで実施した地域アセスメントと地域の健康課題(関連図)、実習地域の基本計画、各種保健計画、事業計画等の見直しをしてください。 ・保健医療福祉関係者のみで健康的な地域をつくることは不可能です。地域に暮らしている住民の力が不可欠であることを忘れず、ヘルスプロモーションの考え方を常に意識して授業に臨んでください。 ・演習は実習での体験を発展させて学びを深める場面です。主体的、積極的に課題に取り組みましょう。 ・授業中や授業終了後に生じた疑問の解決は先延ばしにせず、その都度解決できるような行動を心がけましょう。 		
課題に対するフィードバックの方法	地域ケアシステム構築、保健事業計画の立案を、段階を追って実施するため、毎回の課題の実施状況について振り返り、評価し、次回までの課題を示し、事後・事前学習で取り組めるように説明する。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、行政保健師としての経験を織り交ぜながら、地域の健康課題に対する政策形成過程の実際を理解できるように講義、演習を行います。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (全担当教員)	住民のニーズと地域の健康課題の把握	1.ガイダンス:科目の目的、目標、進め方を説明する。 2.実習地域の住民のニーズと健康問題、健康課題を再考する。 3.地域の健康問題の解決、課題達成に向けた目標を検討する。	事前:実習地域の地域アセスメント資料、実習での体験、住民や関係者から得た情報を振り返り、地域の特性を明確にする(2時間)。 事後:授業内容を基に、どのような地域づくりを目指すのかを考える(1時間)。
2 (全担当教員)	目標達成に向けたシステムの検討①	1.取り上げた健康課題が基本計画、各種保健計画、事業計画においてどの様に位置付けられているのかを体系的に捉える。 2.目標達成のために目指す地域の姿を検討する。 3.既存の社会資源、関係機関、住民組織等を再確認する。	事前:どのような地域づくりを目指すのか、またその理由も説明できるように準備する(1時間)。 事後:検討した対策を体系的に捉える(2時間)。
3 (全担当教員)	目標達成に向けたシステムの検討②	1.目標達成のための対策を考える。 2.対策を推進するために必要なシステムを考える。 3.目標達成のために必要な社会資源、住民や関係職種等を検討する。	事前:目標達成のために効果的だと考える対策を考え、その理由も説明できるように準備する(1時間)。 事後:メンバーから出された対策の関係性を考え、地域ケアシステムについて復習する(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (全担当 教員)	目標達成に向けたシステムの検討③	1.メンバーが考えた対策を体系的に捉え、関連図を作成する。 2.目標達成のための保健事業を検討する。 3.保健事業の計画を立案する。 1)基本計画、各種保健計画における位置づけを確認する。 2)保健事業の目的、目標、評価基準を検討する。	事前：目標達成のための地域ケアシステムと効果的な対策を考え、その理由も説明できるように準備する（2時間）。 事後：取り上げた保健事業の目的、目標を達成するための内容を考える（2時間）。
5 (全担当 教員)	保健事業計画の立案①	1.保健事業の目的、目標と実施内容を検討する。 2.保健事業の実施に向けた準備を検討する。	事前：取り上げた保健事業の目的、目標を達成するための内容を考え、実施に向けた準備をする（1時間）。 事後：発表資料を作成する（2時間）。
6 (全担当 教員)	保健事業計画の立案②	1.地域課題の明確化から保健事業計画の立案までのプロセスと保健事業計画を紹介する資料を作成する。 2.発表の準備	事前：発表資料を作成する（2時間）。 事後：発表資料を作成する（2時間）。
7-8 (全担当 教員)	地域ケアシステムと保健事業計画の発表	1.地域の健康課題に対応した対策と保健事業計画案の発表 2.地域ケアシステム構築のプロセスと必要な要素、保健師の役割についての意見交換	事前：地域ケアシステム構築の検討プロセスについて説明できるように準備をする（2時間）。 事後：到達目標を踏まえて、地域ケアシステム構築についての学びと保健師の役割についてのレポートを作成する（3時間）。

授業科目	保健統計学Ⅱ Health Statistics Ⅱ		担当教員	志渡 晃一、米田 龍大
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ 履修可
授業形態	講義	単位数	1単位	
授業目的	統計を用いた調査の意義と方法について学習し、地域の健康状態の分析・課題発見に向けた実践力を身に着ける。			
到達目標	① 健康や疾病にかかわる統計の目的と使い方の理解を深める。 ② 統計を用いた調査・研究の基礎を身に着け、広い視点から説明できるようになる。			
関連科目	保健統計学Ⅰ			
テキスト	1.浅野嘉延「看護学生のための疫学・保健統計学」(南山堂)2018 2.講義資料を配布する			
参考書	1.福富和夫, 橋本修二「保健統計・疫学」(南山堂)2018			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点	
	試験	100	目標の到達状況を定期試験で評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の 留意事項	定期試験を受験しなかった場合、評価の対象としません。			
課題に対するフィ ードバックの方法				
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、調査研究事例などを講義に織り交ぜ、統計資料の読み方や調査手法、各種指標について理解しやすく授業を行う。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (志渡)	ガイダンス	講義目的, 内容の概説		該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
2 (志渡)	保健統計①	人口統計・指標の振り返り		該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
3 (志渡)	保健統計②	保健統計・指標の振り返り		該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
4 (志渡)	調査法概論①	研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ①		該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
5 (米田)	調査法概論②	精神保健研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ②。		該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
6 (米田)	調査法概論③	統計調査と事例調査, 調査の倫理		該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
7 (米田)	各論①	標本抽出の方法, データの種類と尺度		該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。
8 (米田)	各論②	調査票の作成, 実査の方法		該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく(2時間)。 配付資料及びテキストを用いて復習する(2時間)。

授業科目	小児看護実習 Pediatric Nursing Practicum			担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ		
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	<p>小児期の健康課題・問題をもつ対象者と家族への看護実践能力を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題認識の4つの課題をもとに修得する。</p> <p>小児の成長発達と発達課題を理解し発達段階に応じた日常生活への援助を学ぶ。</p> <p>病院実習においては健康障害が小児とその家族にもたらす影響を理解し、家族との関係形成を含む看護実践の基礎的能力を修得する。また、小児を取り巻く保健・医療・福祉および教育の連携の重要性を学び、療育医療およびチームにおける看護の役割を学ぶ。</p>						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 受けもった子どもと家族（対象者）とのコミュニケーション・観察を通して子どもの健康状態と生活全般を把握し、看護を必要とする健康課題を解釈できる。 明らかになった優先度の高い看護問題に対して看護計画を立案し、対象者の発達段階を考慮し実践できる。 実践した看護が有効であったかを対象者の反応から評価し計画の修正ができる。 実習生として子どもと家族の安全と人権に配慮し、自覚と責任をもち主体的に取り組むことができる。 子どもと家族への看護を通して、医療チームにおける小児看護の専門性と自分の考えを考察できる。 						
関連科目	小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰ・Ⅱ、リハビリテーション看護論Ⅰ						
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いてオリエンテーション時に説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	100	<p>実習目標到達度を評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>* 評価項目および評価基準は実習要項参照</p>				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	実習病院により対象である小児の健康障害の内容や程度が異なるので、講義・演習の学習内容の復習の他、実習前に提示された事前学習を行い実習に取り組みましょう。						
課題に対するフィードバックの方法	実習期間中の記録物の返却や実習中に随時、口頭および記録にてコメントをし、次の看護実践等に活用できるようにしていきます。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、小児期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。						
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 実習は2週間とする。 実習初日は、学内において小児看護技術および基本的な小児看護の知識を復習する。 実習2日目から週の木曜日まで施設実習を行う。金曜日は学内とする。 各施設実習初日には、各施設の管理者および病棟管理者、指導者より病院および病棟オリエンテーションを受ける。 対象は健康障害をもつ小児と家族である。 対象は急性期、慢性期、回復期、周手術期と多岐にわたり、発達段階は乳児期から思春期にわたる。 病院実習の最終日にカンファレンスを行い、受けもち患児と家族への看護から学びを共有する。 <p>* 実習方法の詳細は実習要項をもとにオリエンテーションを実施するので必ず出席すること。</p> <p>なお、旧カリキュラムの入学生は、前期に上記内容の実習で読み替えを行う。</p>						
実習施設	<p>市内・市近郊8か所の施設</p> <p>JCHO 札幌北辰病院、JCHO 北海道病院、市立札幌病院、札幌医科大学附属病院、手稲溪仁会病院</p> <p>北海道立子ども総合医療・療育センター、稲生会くまさんの手、小樽病院みどりの里</p>						

授業科目	母性看護実習Ⅱ Maternal Nursing Practicum II		担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子			
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	必修			
授業形態	実習		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	妊娠、分娩期の経過を踏まえ、褥婦と新生児の正常な経過を理解して健康課題を捉え、ウェルネス看護の視点から看護展開を行う。新しい家族関係を理解し、対象者の状態に応じた看護実践の基礎を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題意識の4つの課題をもとに修得する。母子および家族との援助的関係の形成、生命への畏敬の念をもち倫理的配慮に基づいた行動について学ぶ。退院後の生活を見通した保健指導の必要性、母子を取り巻く地域の保健医療福祉チームとの連携と看護の役割を理解し、多職種と協働できる基礎的能力を体験を通して学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある母子および家族の特性を説明できる。 2. 母子の健康課題を捉え、ウェルネス看護の視点から看護過程を展開できる。 3. 生命への畏敬の念を持ち、倫理的配慮に基づいた行動について考えることができる。 4. 退院後の生活を見通した保健指導の必要性、母性を取り巻く地域の保健医療チームとの連携と看護の役割を説明できる。 5. 医療チームの一員として他者と協働する上で基本となる態度を身につけることができる。 						
関連科目	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱ、母性看護実習Ⅰ						
実習内容	病院施設で褥婦と新生児を受持ち看護を学ぶ実習です。 具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標到達度を評価基準に基づき、実習場での実習内容・態度・実習記録、実習レポートをもとに総合的に評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他	100						
履修上の留意事項	母性看護学に関する基礎知識を身につけて実習に臨むこと。						
課題に対するフィードバックの方法	実習期間中に実習記録に対する個別フィードバックを行います。 評価確定後に実習ファイルは返却します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。						
実習方法	詳細は、実習要項およびオリエンテーション資料を参照のこと。						
実習施設	旭川医科大学附属病院、倶知安厚生病院、札幌医科大学附属病院、市立札幌病院、JCHO 北海道病院、札幌徳洲会病院、勤医協札幌病院						

授業科目	精神看護実習 Psychiatric Nursing : Practicum			担当教員	原田 由香、高橋正樹		
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	心を病む人とのかかわりを通し、対象者について生活の観点から理解を深め、必要な看護活動および精神医療チームにおける多職種との協働について学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受持ちの対象者とのかかわりを通して、精神保健上の健康課題により日常生活や、対人関係に困難を抱えている人について理解を深める。 2. 受持ちの対象者の発達段階や健康状態・生活の状況をアセスメントし、精神の健康が生活におよぼす影響について理解する。 3. 受け持ちの対象者とのコミュニケーションの振り返りを通して得られた気づきを援助技術として活用し患者 - 看護師関係について学ぶ。 4. 受け持ちの対象者を生活者の視点から対象者を取り巻く環境や多職種チームによる協働の意義を学ぶ。 						
実習内容	具体的な内容については実習要項にそって実習オリエンテーションにおいて説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)		評価基準			
	試験	100		実習評価表に基づき、実習施設での実習内容、実習態度、実習記録をもとに総合的に評価する。			
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	これまでの学習を生かし、真摯な姿勢で積極的に取り組むこと。						
実務経験を活かした教育内容	精神科病棟・病院にて実務経験のある担当教員が実習に同行する。						
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症または気分障がいなどの精神疾患を有する人1名を受け持ち、対象者ならびに関係性の理解を深め、必要な看護活動を展開する。 2. 病棟でのミニカンファレンス（毎日）、第1週目および第2週目の学内カンファレンス（各1回）において、実習で生じた疑問や問題点について検討したり、グループ間で実習での学びを共有する。 3. 1グループ学生2～4名を各病院施設に配置して実習する。 						
実習施設	岡本病院、旭山病院、さっぽろ香雪病院、五稜会病院、大谷地病院、ここりカプロダクション						

授業科目	在宅看護実習 Home Care Nursing : Practicum				担当教員	安藤 陽子、作並 亜紀子、武澤 千尋、 小川 克子、川口 桂嗣		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
	○	○	○	○	◎	○	○	
ねらい	地域で疾病や障がいを持ちながら療養している人々とその家族の健康状態と生活状況を理解し、対象の多様性と個別性を尊重し倫理的課題に配慮しつつ予防的な視点をもって展開される在宅看護の特徴を学ぶ。また、他職種と連携協働をしながら地域包括ケアシステムを推進していくための看護師の役割を学ぶ。							
実習目標	1.在宅療養者・家族の健康と生活を理解し、対象の思いや望む生活を支える看護過程を理解する。 2.地域で生活する在宅療養者・家族を支える在宅看護の特徴を理解する。 3.在宅で療養する人々を支える地域包括ケアシステムを理解し、関係機関や関係職種との連携および社会資源の活用方法について理解する。 4.在宅看護を学ぶ学生として、主体的に学び責任ある態度で実習に臨むことができる。							
関連科目	3年前期 在宅看護概論 3年後期 在宅看護論ⅠおよびⅡと密接に関連する。							
実習内容	具体的な内容については実習要項を用いて、実習オリエンテーションで説明する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間の2/3以上の出席が評価対象となる ・実習評価表に基づき、目標到達度を評価する 					
	レポート							
	小テスト							
	提出物							
	その他	100						
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を行い、実習に臨んでください。 ・実習オリエンテーションも実習の一部です。必ず出席してください。 ・看護の対象者は地域で療養しながら生活している人々です。本人と家族がどのような思いを持ちながら生活されているのかに関心を持ち、その生活を支える看護の役割をしっかりと考えるようにしてください。 ・実習で受けた説明や体験したことの意味を考えながら学びを深めてください。 							
課題に対するフィ ードバックの方法	実習終了時には学生の成長を促すよう、学生の自己課題について伝える。							
実務経験を 活かした教育内容	地域において多様な在宅療養者と家族を看護した実務経験者の立場から、在宅看護について理解しやすいように実習指導を行います。							
実習方法	<p>グループ(2~3名)毎に、いずれかの訪問看護ステーションで以下の方法に従って実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.実習体制 1)実習は実習施設10日間、うち学内実習3日間の計2週間で行う。 2.実習内容 1)受け持ち事例について：実習中に1事例を受け持ち、看護過程を展開する。 ・可能な限り、2回以上の訪問看護を実施する。 2)受け持ち事例以外の方への訪問看護や訪問リハビリへの同行、デイケア等へ参加し、学びを深める。 3)他機関・他職種間の連携活動を学ぶ機会として、可能な限り「サービス調整会議」「退院予定者の退院支援」等へ参加する。 4)行動調整および学生カンファレンス ・毎日、訪問ステーション内で実習指導者と行動調整を行い、実習に臨む。 ・実習終了時には1日の振り返りを学生間で実施する。 ・1週目の木曜日には学内で中間カンファレンス、最終日には指導者も含めた最終カンファレンスを行う。 5)学内実習は、指定された課題に沿って学習する。 							
実習施設	訪問看護ステーションピンポンハート、訪問看護ステーション晴日、訪問看護リハビリテーション温っどほむ、訪問看護ステーションみなみ、訪問看護ステーションまこまない、訪問看護ステーションとよひら・ちゅうおう、訪問看護ステーション水源池さずらん、札幌山の上りハ訪問看護ステーション、SOMPO ケア札幌 発寒訪問看護、勤医協つきさむ訪問看護ステーション、勤医協きくすい訪問看護ステーション、勤医協ひがし訪問看護ステーション、札幌東徳洲会訪問看護ステーション 訪問看護ステーション東札幌、訪問看護ステーションみずほ							

授業科目	災害看護論 Disaster Nursing			担当教員	吉田 祐子、未定		
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎
授業目的	わが国の災害の歴史や特徴を理解し、災害による地域の人々の生活や健康、そして社会への影響について学び、災害に対する法・制度の仕組みを理解する。災害の特徴を踏まえた災害サイクル各期における人々の健康生活へのニーズを理解し、リスクマネジメントにおける看護職の役割と機能について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害と災害看護・災害医療に関する基礎的知識を理解する。 2. 災害の種類による疾病構造について理解する。 3. 災害サイクル各期における特徴を理解する。 4. 災害関連機関の役割・支援体制について理解する。 5. 災害時の看護活動の実際および連携と共同について理解する。 						
関連科目	医療安全論						
テキスト	開講時に提示する。						
参考書	開講時に提示する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		講義内容を踏まえて、災害看護に関する自己の考えを記述する。レポートのテーマおよび評価基準の詳細は開講時のガイダンスにて説明をする。				
	レポート	100					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	日常的に報道されている災害関連の情報について関心を持って収集し、そこに生じている諸現象と人々の生活、健康との関連について考えてください。						
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートに対し個別にフィードバックを行う。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での具体的な事例を交えながら授業を展開します。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (吉田)	災害看護の基礎①	災害看護の歩み、定義、法律			事前学習：学習主題の予習 (1時間) 事後学習：講義の内容の復讐 (2時間)		
2 (未定)	災害看護の基礎②	災害の種類別疾病構造、災害と感染について			事前学習：学習主題の予習 (1時間) 事後学習：講義の内容の復讐 (2時間)		
3 (未定)	災害看護の基礎③	トリアージ、DMAT、災害と情報、災害拠点病院について			事前学習：学習主題の予習 (1時間) 事後学習：講義の内容の復讐 (2時間)		
4 (未定)	災害急性期・亜急性期の看護	避難所における看護について			事前学習：学習主題の予習 (1時間) 事後学習：講義の内容の復讐 (2時間)		
5 (未定)	災害慢性期・復興期の看護	災害慢性期・復興期の看護			事前学習：学習主題の予習 (1時間) 事後学習：講義の内容の復讐 (2時間)		
6 (未定)	災害静穏期の看護	病院防災の備え、地域防災の備えについて			事前学習：学習主題の予習 (1時間) 事後学習：講義の内容の復讐 (2時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (未定)	災害時の看護①	災害時における行政・ボランティア・地域の連携協働について	事前学習:学習主題の予習(1時間) 事後学習:講義の内容の復讐(2時間)
8 (未定)	災害時の看護②	DMAT、災害支援看護師の活動の実際について	事前学習:学習主題の予習(1時間) 事後学習:講義の内容の復讐(2時間)

授業科目	看護課題研究 Nursing Research			担当教員	木津 由美子、吉田 祐子他		
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・通年			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○			◎
授業目的	自己の看護への興味や疑問から自らの課題を設定し解決するために、これまで学習してきた情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能と看護学研究法で学んだ基礎的知識をもとに適切な手法を選択して計画的かつ系統的に探究することで、創造的思考力を養う。また、研究計画書を作成し、討議や発表を通して論理的表現や批判力の向上を図るとともに研究の基礎的知識・技術・態度を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の探求課題を明確にする。 2. 自己の課題に関連する先行文献を検索し、整理することができる。 3. 文献を批判的に読むことができる。 4. テーマを探求するための計画書を作成することができる。 5. 研究に係る倫理的配慮のもとに、計画書を実施することができる。 6. 研究計画書を発表することができる。 7. 研究の基本的知識・技術・態度を身につける。 						
関連科目	3年次に履修した看護学研究法と密接に関連する。						
テキスト	なし						
参考書	研究の基礎的な方法については、看護学研究法のテキスト・参考文献に同じ。 課題に関連した文献は、担当教員の指導・助言をもとに各自で検索し活用する。						
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		評価については、ガイダンス時に評価表を提示し説明する。				
	レポート		・研究計画書 (60%)				
	小テスト		・発表資料 (10%)				
	提出物		・研究計画書作成に対する姿勢 (15%)				
その他	100	・発表 (15%) 以上の評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。					
履修上の 留意事項	グループで1年を通して研究計画書の作成を学習します。チームワークを発揮して取り組んでください。						
課題に対するフィ ードバックの方法	教員により方法は異なりますが、計画書作成過程で提出物に口頭またはコメントを付すなどの方法でフィードバックします。						
実務経験を 活かした教育内容	各担当教員は、実務経験者の立場から専門分野の特徴を踏まえて、学生が看護課題を探求できるように演習を展開します。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1 (木津他 全担当 教員)	看護課題研究の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点) 2. 学習するゼミグループの発表 3. 各ゼミに分かれ年間スケジュールの作成 				事前：シラバスを読み、履修上の疑問を明らかにしておく。看護学研究法最終講義時に提出した研究テーマ希望について内容を確認し、ガイダンスに臨む。 事後：看護課題研究の学習計画を立てる(1時間)。	
2~5 (木津他 全担当 教員)	研究課題の設定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員のもとで、研究課題を設定する。 ・グループ・ディスカッション ・研究課題に関する文献検索 ・研究課題の設定 				事前：研究課題に関する考えを明確にしておく(1時間)。 事後：ゼミで行った内容を整理しノートのまとめる(1時間)。	
6~10 (木津他 全担当 教員)	文献検索と整理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員のもとで、研究課題に関する文献検索、購読し課題の明確化 ・研究課題に関連した文献を収集する。 ・収集した文献を系統的に整理する。 ・整理した文献を購読、要約し、研究課題を明確化する。 				事前：グループ学習に必要な文献を読む(1時間)。 事後：ゼミで行った内容を整理し、ノートにまとめる(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11～15 (木津他 全担当 教員)	文献レビュー	1. 収集、整理した文献について批判的検討 ・研究課題に関連した適切な論文を選択する。 ・選択文献を精読し文献カードを作成する。 ・文献の分類、分析、統合により研究課題を概観する。	事前：文献をクリティークする(2時間)。 事後：ゼミで行った内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)。
16～25 (木津他 全担当 教員)	研究計画書作成 発表準備	1. 研究計画書の作成 2. 研究計画書発表準備 ・発表抄録を作成要領に基づいて作成する。 ・発表内容に即したパワーポイント資料を作成する。	事前：配付の要項を読み、計画書作成の要領を確認する(1時間)。 事後：ゼミメンバーで協力し計画書を作成する。
26 (木津・ 吉田)	発表会の進め方	1. 発表会オリエンテーション ・発表者、司会進行係、参加者の役割責任の理解 ・メンバー間で役割分担の決定 ・発表準備をする	事前：抄録やスライドの確認をする(1時間)。 事後：発表に向けてゼミメンバーで発表の練習をする(2時間)。
27～30 (木津他 全担当 教員)	看護課題研究発表会	1. 発表の主体的な参加 ・タイムスケジュールに沿って発表を行う。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割を担い、学びを共有する。	事前：ゼミメンバーで発表練習を行い発表会に臨む(2時間)。 事後：ゼミの発表を振り返り、自己の課題を明確にする(1時間)。

授業科目	クリティカル看護論 Critical Nursing			担当教員	小野 善昭		
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期			選択・必修	選択必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎
授業目的	<p>生命の危機状態（重篤・急変状態）にある患者・家族への看護の基本的な知識・技術を理解するために、患者・家族の特徴や倫理的問題の基本概念を理解しつつ、クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解する。特に呼吸管理・循環管理・代謝管理に関する知識と看護援助の実践について学ぶ。また、緊急時対応の原則、リスクマネジメントなど、クリティカルな場において看護師の果たすべき役割について理解する。さらに、クリティカルケアの専門性について講義をととして学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアに関する基本概念について理解できる 2. クリティカルな状態にある患者の病態とその特徴を理解できる 3. クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解できる 4. 呼吸管理、循環管理、代謝管理が必要な患者への看護について理解できる 5. 外傷や臓器移植などクリティカル領域における特徴的な看護について理解できる 						
関連科目	主に成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護実習Ⅰに関連する。その他、専門基礎科目の「個人と健康」、「社会と健康」、専門科目の「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」の各科目と関連している。						
テキスト	明石恵子,益田美津美他「新体系看護学全書 経過別成人看護学 1急性期看護：クリティカルケア」（メヂカルフレンド社）						
参考書	<p>道又元裕他「系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学」（医学書院） 佐藤まゆみ,林直子他「成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア（改訂第3版）」（南江堂） 池松裕子「クリティカルケア看護Ⅰ - 患者理解と基本的看護技術」（メヂカルフレンド社） 池松裕子「クリティカルケア看護Ⅱ - アセスメントと看護ケア」（メヂカルフレンド社） 池松裕子他「クリティカルケア看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 山勢善江「救急・クリティカルケアにおける看取り（Nursing Mook 49）」（学研） 山勢博彰他「救急・重症患者と家族のための心のケア - 看護師による精神的援助の理論と実践」（メディカ出版） 黒田裕子他「クリティカルケア看護 完全ガイド」（医歯薬出版）</p>						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	目標達成状況を定期試験（80%）、レポート（20%）により総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた危機的状況にある事例に関するレポートなどの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	本科目に関係するこれまでの学習について復習し、事前学習を行って授業に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1~2時間の時間を要します。						
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、課題提示時にフィードバックについて説明します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、クリティカル看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に CNS として活躍されている方をゲストスピーカーとして招き、実践状況を踏まえて授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス、基本概念、侵襲に伴う生体反応	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. クリティカルケアの定義 3. クリティカルケア看護の対象と特徴 4. 神経・内分泌系反応 5. サイトカインの作用様式 6. 全身性炎症反応症候群（SIRS）と代謝性炎症反応症候群（CARS） 			<p>事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する</p>		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
2	呼吸不全患者への看護 (ゲストスピーカー) クリティカル領域に勤務している CNS	1. 呼吸不全と人工呼吸器装着の適応 2. 人工呼吸の主な換気様式 3. 全身への影響・合併症 4. 観察とケア	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
3	循環不全患者への看護 (ゲストスピーカー) クリティカル領域に勤務している CNS	1. 循環状態の安定を図るための援助 2. PCPS：経皮的心肺補助装置 3. IABP：大動脈バルーンパンピング	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
4	鎮痛・鎮静、せん妄予防とケア (ゲストスピーカー) クリティカル領域に勤務している CNS	1. 痛みの評価とマネジメント 2. 鎮静の評価とマネジメント 3. せん妄の評価とマネジメント 4. せん妄患者および家族へのケア	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
5	外傷患者への看護 (ゲストスピーカー) クリティカル領域に勤務している CNS	外傷患者の特徴と看護ケア	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
6	移植医療、脳死と臓器移植 (ゲストスピーカー) クリティカル領域に勤務している CNS	1. 臓器移植とは 2. 臓器移植の現状 3. 脳死 4. 脳死判定 5. 臓器移植における看護師の役割	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
7	クリティカルケアにおける終末期医療 (ゲストスピーカー) クリティカル領域に勤務している CNS	1. クリティカルケアにおける終末期 2. 倫理問題への対応 3. 意思決定支援 4. 緩和ケア	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
8	クリティカルケアと倫理的問題、チーム医療、まとめ	1. 看護倫理の定義と原則 2. 多職種との協働 3. チーム医療の中の看護師の役割 4. まとめ	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	慢性看護論 Chronic Care Nursing			担当教員	加藤 剛寿、伊藤 円、渡辺 美和		
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期			選択・必修	選択必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	○
授業目的	<p>看護者は慢性疾患を持つ患者一人ひとりの多様な価値観や生き方、さまざまな役割を持った一人の生活者であることを理解し、具体的な知識・技術を提供するとともに、セルフマネジメント力を身に付けられるようアプローチしていく必要がある。</p> <p>本授業では、臨床現場の第一線で活躍する専門看護師からの講義を通して、専門性の高い慢性疾患看護やがん看護を発展的に広い視野で捉えること、また、生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象者の健康問題を捉え、その人の生活習慣を理解し、健康を維持・増進するための看護の実際やソーシャルサポートについて学ぶことを目的とする。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期看護の専門性について考えることができる。 慢性期及び慢性期看護の特徴を概説できる。 慢性疾患を抱える人の病気の経過と看護について考えることができる。 慢性の病気とともに生活している人の身体的・心理社会的・スピリチュアルなニーズを説明できる。 慢性の病気とともに自分らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考えることができる。 がんサバイバーの全人的苦痛と支援について説明できる。 						
関連科目	成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ、成人看護活動論Ⅱ、成人看護活動論Ⅲ、成人看護実習Ⅰ、成人看護実習Ⅱが主な関連科目である。						
テキスト	鈴木久美、他編「成人看護学 慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第3版」(南江堂)						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 鈴木志津枝・藤田佐和 編「慢性期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 安酸史子 他「ナーシンググラフィカ 成人看護学② セルフマネジメント」(メディカ出版) 安酸史子「糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力 改訂3版」(メディカ出版) P・ディヤング 他「解決のための面接技法 第3版」[同4版](金剛出版) 河口てる子 編「慢性看護の患者教育」(メディカ出版) 小松 浩子 編「系統看護学講座-別巻 がん看護学」(医学書院) 						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		<p>目標到達状況を提出物によって評価する。</p> <p>加藤 (50%)：提出物の内容は講義時に説明します。</p> <p>伊藤 (10%)：提出物の内容は講義時に説明します。</p> <p>渡辺 (40%)：提出物の内容は講義時に説明します。</p>				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	100					
その他							
履修上の留意事項	慢性疾患看護専門看護師の授業は同一日に連続で行われることがあります。評価基準のとおり、評価割合が高いため、特に全出席できるよう体調管理を十分整えていきましょう。						
課題に対するフィードバックの方法	授業中、全体に向け修得できた部分、改善が必要な点を都度アナウンスする。また、課題によっては個別でループバック表の返却やコメント付記によるフィードバックを予定している。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。						
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (加藤) (伊藤)	ガイダンス、慢性疾患を抱える人の病気の経過と看護	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患の経過の特徴 慢性疾患とともに生活している人の特徴 慢性疾患を抱える人の家族の特徴 慢性疾患とともに生活している人への看護 			<p>事前学習：該当部分のテキストを読んでおく(2時間)</p> <p>事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出、復習(2時間)</p>		
2 (加藤)	慢性疾患を抱える人に対する行動変容を促す看護	<ol style="list-style-type: none"> 解決のための面接技法「ソリューション・フォーカストアプローチ」 ソリューション・フォーカストアプローチの実践例 			<p>事前・事後学習：学習主題の予習(2時間)・事後の課題提出と復習(2時間)</p>		
3、4、5 (渡辺)	慢性疾患看護専門看護師の役割 慢性疾患看護専門看護師が行う糖尿病を抱えて生活する人の看護	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患看護専門看護師の役割 慢性疾患看護専門看護師の糖尿病の人への看護の実際 キャリア形成 			<p>事後学習：学習主題の予習(2時間)・事後の課題提出と復習(2時間)</p>		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (加藤)	がんサバイバーの理解	1. がんサバイバーシップの考え方 2. がんサバイバーシップの歩むプロセス 3. がんサバイバーの全人的苦痛	事前・事後学習:学習主題の予習(2時間)・課題提出と復習(2時間)
7 (加藤)	がんサバイバーの支援(1)	1. がんサバイバーの全人的苦痛に対する支援 (GS がん看護専門看護師)	事前・事後学習:学習主題の予習(2時間)・課題提出と復習(2時間)
8 (加藤)	がんサバイバーの支援(2)	1. がんサバイバーに対する支援の実際 (GS がん看護専門看護師)	事前・事後学習:学習主題の予習(2時間)・課題提出と復習(2時間)

授業科目	リハビリテーション看護論Ⅱ Rehabilitation Nursing II			担当教員	小野 善昭		
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期			選択・必修	選択必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎
授業目的	リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護の実際から、リハビリテーション看護の知識・技術・態度について学び、リハビリテーションに関わる各職種の役割および保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する。また、在宅でリハビリテーションを必要としている人とその家族に対する支援や健康増進に向けた知識・技術を習得することを通して地域包括ケアシステムについて講義をとおして学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションにおける看護の役割について理解する 2. リハビリテーションの目的とリハビリテーションに関わる職種の役割について理解し、チーム医療における看護職の役割を理解する 3. リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護援助について理解する 4. 在宅でリハビリテーションをしている人とその家族に対する必要な援助について理解する 						
関連科目	主にリハビリテーション看護論Ⅱに関連する。その他、専門基礎科目の「個人と健康」、「社会と健康」、専門科目の「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」の各科目と関連している。						
テキスト	酒井郁子/金城利雄 編集「リハビリテーション看護 改訂第3版」(南江堂) (2年次購入済み)						
参考書	中西純子/石川ふみよ 編集「リハビリテーション看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 武田宜子/下村晃子 他「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第6版」(医学書院) 奥宮暁子他 編集「ナーシンググラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護」(メディカ出版) 落合美英子 監修「新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 第2版」(メヂカルフレンド社)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験	80	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた障がいをもつ人への看護及び講義での学びに関するレポートなどの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物						
その他							
履修上の留意事項	事前、事後学習を確実に行って講義に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに1~2時間の時間を要します。						
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントを付して返却する場合と授業内で解説する場合があります。なお、詳細については、課題提示時にフィードバックについて説明します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、リハビリテーション看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に病院や在宅でのリハビリテーション看護に携わるゲストスピーカー招き、実践を踏まえて授業を行います。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	呼吸機能や循環機能に障害のある人へのリハビリテーション看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 呼吸機能や循環機能に障害のある対象者のリハビリテーションの目的 3. 呼吸リハビリテーション・心臓リハビリテーションの実際 4. 呼吸リハビリテーション・心臓リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際 			事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する 呼吸器疾患、循環器疾患および看護についてテキスト等を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する		
2	摂食嚥下障害のある人へのリハビリテーション看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下のメカニズムとその障害 2. 嚥下障害のアセスメント 3. 嚥下障害のある対象者へのリハビリテーション看護 ※ゲストスピーカー(病院でリハビリテーション看護に携わる看護師)			事前学習：摂食嚥下障害及びその看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する		
3	高次脳機能障害・言語機能障害のある人へのリハビリテーション看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害とリハビリテーション 2. 言語機能障害とリハビリテーション ※ゲストスピーカー(病院でリハビリテーション看護に携わる看護師)			事前学習：高次脳機能障害及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護	1. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護 3. 脳神経疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 ※ゲストスピーカー(病院でリハビリテーション看護に携わる看護師)	事前学習：脳神経疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
5	障害を有する子どもへのリハビリテーション看護	1. 障害を有する子どもとリハビリテーション 2. 障害を有する子どもへのリハビリテーション看護の実際 ※ゲストスピーカー(病院でリハビリテーション看護に携わる看護師)	事前学習：障害を有する子どもへのリハビリテーション及び看護についてテキスト等を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
6	在宅リハビリテーションを行っている人へのリハビリテーション看護1	在宅リハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 1. 生活期リハビリテーションが行われる場とその特徴 2. 在宅でのリハビリテーションの実際 3. 地域リハビリテーション ※ゲストスピーカー(在宅でリハビリテーション看護に携わる看護師)	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
7	在宅リハビリテーションを行っている人へのリハビリテーション看護2	在宅でリハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 ※ゲストスピーカー(在宅でリハビリテーション看護に携わる看護師)	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
8	運動機能障害のある人へのリハビリテーション看護、まとめ	1. 運動器疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 運動器疾患のある人へのリハビリテーション看護 3. 運動器疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 4. ロボット工学とリハビリテーション 5. まとめ	事前学習：運動器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する 指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	国際看護論 International Nursing	担当教員	正岡 経子、石川 祐美、近藤 美智子、 小池 真理子、北間 砂織、鈴木 幹子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	グローバル化の概念やグローバル化が健康に与える影響について学び、世界の健康問題、特に途上国を中心に世界の健康問題の現状と対策を理解し、各国の協調により問題を解決するための仕組みを学ぶ。また、社会文化を背景とする健康・疾病概念、及び保健行動の多様性を知り、看護の普遍性と多様性を理解し、より広い視野から看護の果たすべき役割を考察する。さらに、保健医療の国際協力における看護の役割、諸外国の社会経済や文化・教育に起因する健康課題と看護の現地における活動、災害等への国際支援活動に関する基礎知識から、看護活動を通じての国際共存の考え方を習得する。		
到達目標	1. グローバル・ナーシングの概念を理解する。 2. 看護における国際協力、国際交流の現状について理解する。 3. グローバル・ヘルスにおいて看護職である自分自身の果たす役割について考察する。		
関連科目	環境保健論、健康教育論、国際社会論		
テキスト	特に指定はしない。		
参考書	大橋一友・岩澤和子編：国際化と看護-日本と世界で実現するグローバルな看護を目指して メディカ出版		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		レポートの提出状況、内容から到達目標 1～3 の到達状況を評価する。 正岡(1・2回) ミニツペーパー 30% 小池(3回)・石川(4回)・近藤(5・6回)・北間(7回)・鈴木(8回) ミニレポート 70% ()内の数字は、各々授業回数(担当)を示す
	レポート	100	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	授業スケジュールは非常勤講師の都合および学習の進捗状況により変更する場合がある。		
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントをして返却する。		
実務経験を 活かした教育内容	具体的な活動経験を踏まえ、その知見を活かした授業を行う。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	国際看護学とグローバル・ナーシング	1. 国際看護学の主要な概念 2. 国際看護を行う看護職に必要な能力	事前学習：看護に国際的な視点が必要な背景を調べる (3時間) 事後学習：ミニツペーパーに取り組む (0.5時間)
2	世界の健康格差と国際的な取り組み	1. 先進国と発展途上国の健康格差の現状と背景 2. 国際協力機関の取組み 3. 看護専門職の役割	事前学習：世界の健康格差の現状について調べる (3時間) 事後学習：ミニツペーパーに取り組む (0.5時間)
3	JOCV セネガル看護師隊員としての活動	1. JOCV 青年海外協力隊の国際的役割 2. セネガルへの協力の実際	事前学習：青年海外協力隊の役割、セネガルについて調べる。(2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)
4	5Sで救える生命-バンングラデシュの周産期環境	1. バングラデシュの周産期をめぐる諸環境 2. バングラデシュへの協力の実際	事前学習：バンングラデシュについて調べ、特に周産期医療の現状について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)
5	国際緊急援助隊の活動	1. 日本の国際緊急援助隊について 2. 国際緊急援助隊の具体的な活動	事前学習：国際緊急援助隊の現状について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)
6	在日外国人の健康課題と看護	1. 在日外国人が体験するわが国の保健医療の特徴 2. 在日外国人の健康課題とその背景 3. 在日外国人への看護	事前学習：在日外国人が体験するわが国の保健医療の現状と特徴的健康課題および看護について調べる (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	在住外国人の健康支援 -医療通訳者の視点から-	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在日外国人の健康意識 2. 在日外国人が日本で経験する医療文化の違い 3. 医療通訳者としての在宅外国人への健康支援 	事前学習：在日外国人が日本で生活 する中で抱く健康意識の現状とその 背景にある医療文化について調べ、 支援について考える (2時間) 事後学習：ミニレポート (1時間)
8	国際的看護の活動 (海外 における災害医療支援)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力における看護の役割 2. 国際的看護活動の実際 	事前学習：国際看護師協会・日本看 護協会のホームページを閲覧し、国 際的看護活動の実際を調べる (2時 間) 事後学習：ミニレポート (1時 間)

授業科目	看護教育論 Nursing Education			担当教員	大日向 輝美		
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
							◎
授業目的	<p>本科目は「看護教育の歴史・現状・課題」をテーマとします。しかし、これらを体系的に叙述することは不可能なので、看護・看護教育のありようを概観し、批判する材料を提供したいと思えます。なぜなら、「教育」という営みの本来的な価値は「多くのことを教えるのではなく、多くのことが見えてくることを教える」(須田勝彦) ことにあると考えるからです。「多くのことが見えてくる」というのは、物ごとを多面的かつ批判的に捉え、将来を切り拓いていく力を得ていくことを意味します。本科目では、看護・看護教育の観点から「多くのことが見えてくる」ための材料を提供し、それらをもとに自らの考えを深めてもらいたいと願います。この科目への取り組みによって、大学で看護学を学んだ意味を改めて問い、看護・看護学に向き合う自己のありようを捉え直す契機としてください。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・看護教育の目的・機能について、授業内容と関連づけて自己の意見を表明できる。 2. 看護の専門職化について、授業内容と関連づけて自己の意見を表明できる。 3. 我が国の看護職養成制度の変遷と特徴、課題について、規定要因と関連づけて説明できる。 4. 我が国の看護職養成課程の特徴、課題について、規定要因と関連づけて説明できる。 5. 大学で看護学を学んだ意味を問い直し、自己のキャリア・アップ、生涯学習のあり方について構想できる。 						
関連科目	看護管理論						
テキスト	なし						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 杉森みどり、舟島なをみ編「看護教育学」第6版(医学書院) 2. グレグ美鈴、池西悦子「看護教育学」(南江堂) その他、適宜授業中に紹介します。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		提出物：毎時の授業、事前・事後学習ではワークシートを用いて思考をまとめ、提出します。評価基準等の詳細は1回目の授業で説明します。 レポート：看護教育に関する自分なりの考察を行っているか否か等を評価します。評価基準等の詳細は8回目の授業で説明します。				
	レポート	30					
	小テスト						
	提出物	70					
その他							
履修上の留意事項	授業は、学生と教員、学生同士の対話の場なので、積極的な参加を求めます。また、この科目では「考える」ことを重視します。学生生活の最終年にこれまでの学修を改めて意味づけ、看護・看護教育について考えてみたいと希望する学生の履修を歓迎します。なお、授業進行は履修者の取り組みや希望によって変更することがあります。下記の授業計画は現時点における一応のストーリーと理解してください。						
課題に対するフィードバックの方法	提出物は基本的にコメントを記載して返却します。 前時の提出物の記載内容に関し、次の時間にコメントします。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス、教育とは何か	・本科目の目的・内容・方法、履修上の留意事項(ガイダンス) ・「教育とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・教育の概念と概要に関する講義			事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む		
2	看護教育とは何か	・「看護教育とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・看護教育の概念と概要に関する講義			事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む		
3	看護職は専門職か	・「専門職とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・専門職の概念・要件、看護の専門職化等に関する講義			事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む		
4	看護職養成制度の体系と変遷を知る	・教育法制と看護職養成制度の位置づけ、変遷、規定要因等に関する講義			事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む		
5	看護職養成制度の現状と課題を捉える	・看護職をめぐる二重制度(看護師・准看護師)に関する講義 ・准看護師制度にかかわる問いへの取り組み			事前(1時間):配付資料を講読し、ワークシートの課題に取り組む 事後(1時間):ワークシートの課題に取り組む		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	看護職養成課程の特徴と変遷を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師法と指定規則、指定規則の変遷等に関する講義 ・指定規則の変遷と看護学の発展過程にかかわる問いへの取り組み 	事後（1時間）：ワークシートの課題に取り組む
7	看護職養成課程の現状と課題を捉える	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の教育課程の特徴と課題にかかわる問いへの取り組み ・看護職養成課程の課題と展望に関する講義 	事後（1時間）：ワークシートの課題に取り組む
8	看護職としてのキャリア・アップと継続学習に向き合う	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアと継続学習に関する講義 	事後（1時間）：自らのキャリアデザインをワークシートにまとめる、その他ワークシートの課題に取り組む

授業科目	看護総合実習 Integrative Nursing : Practicum			担当教員	木津 由美子、吉田 祐子、他		
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	○	○
ねらい	看護実践能力を培うことをねらいとして、4年間の学習の集大成として既習の学習内容や体験を統合し、複数患者を対象とした看護活動を行うとともに今後の自己課題を明確にすることである。このねらいを達成するために、看護チームの一員として、複数の患者・家族への看護を実践するなかで、看護の優先度ならびに必要性を判断し、今後の基盤となる看護実践能力を身につける。また、保健医療福祉チームが患者・家族を中心にどのように連携・協働しているのかの実際を学ぶ。						
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解に必要な情報を意図的に収集する。 2. 患者一看護師間のケアの概念に基き、援助的人間関係を形成する。 3. 看護チームの一員として看護実践のなかで生じる多様な状況を判断し実践する。 4. 患者の状況に応じて安全に看護を実践する。 5. 保健医療福祉チームにおける看護職者の果たす役割、機能についての実際を理解する。 6. 実習の全プロセスを通して責任ある態度で実習する。 7. 看護職としての今後の自己課題を明確にする。 						
関連科目	1年次から学習した科目すべてが関連する。看護学生として4年間の学びの統合となる。						
実習内容	具体的な内容については、実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		実習要項に記載の方法で評価をする。 実習評価基準、出席状況、態度に基づき、目標達成状況を評価する。 詳細は、実習オリエンテーション時に示す。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
その他	100						
履修上の留意事項	実習のオリエンテーションは必ず参加すること。その上で、病棟の特性に合わせた事前学習を必ず行っておく。また、これまでの学習内容（講義・実習等）を復習し、複数の対象者を受け持ってタイムリーに看護実践ができるよう準備を整えておく。						
課題に対するフィードバックの方法	実習中毎日記載する行動計画・評価用紙にコメントを付して返却する。また病棟での看護実践では、その都度口頭でフィードバックする。						
実務経験を活かした教育内容							
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受け持ち、看護チームスタッフ / 実習指導者とともに看護を実践する。 2. 看護チームスタッフ / 実習指導者とともに、複数患者のケアの優先度を考え、一日の行動計画を立案・実施する。 3. 必要時、病棟カンファレンスに参加（見学）する。 4. 学生同士で情報を共有し、協働しながら看護を実践する。 5. 週1回、教員および施設の実習指導者の参加のもとでケースカンファレンスを行う。 ※詳細は実習要項を参照のこと。						
実習施設	札幌医科大学附属病院、北海道大学病院、札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、北海道大野記念病院、札幌麻生脳神経外科病院、東札幌病院、北光記念病院、クラーク病院、札幌しらかば台病院、イムス札幌消化器中央総合病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、石橋胃腸科病院						

授業科目	実践総合演習 Comprehensive Seminar in Nursing Practice		担当教員	木津 由美子、吉田 祐子他 全看護教員			
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	必修			
授業形態	演習		単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					○		◎
授業目的	本科目では、看護実践に関する既習の知識・技術・態度を統合し、課題を解決するための創造的思考力、看護実践力を養うことを目的とする。さらに、この学習を通して、看護実践能力における自己課題を明確にし、自己成長に必要な対策を自ら立案する能力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の習得状況を確認し、具体的な行動レベルで準備、実施することができる。 2. 対象者の状況に合わせて、根拠に基づき看護技術を選択し、実施することができる。 3. 上記の学習過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。 						
関連科目	1年次から学習した看護師に必要な科目すべてが関連し、4年次卒業時の看護実践能力を培う。						
テキスト	なし						
参考書	これまでの専門基礎科目・専門科目で使用したテキスト・参考書 ※その他、学習内容に合わせ、随時紹介する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		目標の達成状況を提出物により総合的に評価する。 ①筆記試験(30%) ②看護技術到達度チェック(50%) ③自己課題レポート(20%)				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	100					
その他							
履修上の留意事項	これまでの知識・技術・態度を振り返り、看護職者としての実践力を養うために、主体的に行動・学習してください。						
課題に対するフィードバックの方法	提出物の返却はしないが、全体へコメントを口頭で行う。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (木津・吉田)	看護技術の総復習①	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 紙面事例の情報整理 			事前：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく(1時間)。 事後：紙面事例の情報を所定用紙に整理する(1時間)。		
2 (木津・吉田)	看護技術の総復習②	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(看護技術に関する問題) 			事前：国家試験対策の看護技術について学習する(1時間)。 事後：筆記試験の自己採点と間違えた問題の正解を調べる(2時間)。		
3 (木津・吉田他)	看護技術の総復習③	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の看護計画立案① 2. 既習の看護技術の復習 			事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。 事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。		
4 (木津・吉田他)	看護技術の総復習④	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙面事例の看護計画立案② 2. 既習の看護技術の復習 			事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。 事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (木津・吉田他)	看護技術の総復習⑤	1. 紙面事例の行動計画の立案① 2. 既習の看護技術の復習	事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。 事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。
6 (木津・吉田他)	看護技術の総復習⑥	1. 紙面事例の行動計画の立案② 2. 既習の看護技術の復習	事前：紙面事例への援助に必要な知識・技術をテキストで確認する(1時間)。 事後：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する(2時間)。
7 (木津・吉田)	看護技術の総復習⑦	1. 筆記試験問題の解答・解説	事前：自己回答を確認する(1時間)。 事後：解説と自己回答を確認し、弱点補強をする(1時間)。
8 (木津・吉田他)	看護技術の総復習⑧	1. 行動計画をもとにした看護技術練習①	事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。(1時間)。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。
9 (木津・吉田他)	看護技術の総復習⑨	1. 行動計画をもとにした看護技術練習②	事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。(1時間)。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。
10 (木津・吉田他)	看護技術の総復習⑩	1. 行動計画をもとにした看護技術練習③	事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。(1時間)。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。
11 (木津・吉田他)	看護技術の総復習⑪	1. 行動計画をもとにした看護技術練習④	事前：実施する看護技術について原理原則を確認・復習する。(1時間)。 事後：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習し改善策を立てる(1時間)。
12 (木津・吉田)	看護技術到達度チェック①	1. 看護技術到達度チェックオリエンテーション	事前：看護技術の自己練習で疑問点を明らかにしておく(1時間)。 事後：看護技術到達度チェックの方法を配付資料で確認する(1時間)。
13 (木津・吉田他)	看護技術到達度チェック②	1. 行動計画に基づいた援助の実践①	事前：紙面事例に必要な援助の実践ができるように自己練習する(2時間)。 事後：学生や教員からのコメントをまとめる(1時間)。
14 (木津・吉田他)	看護技術到達度チェック③	1. 行動計画に基づいた援助の実践②	事前：紙面事例に必要な援助の実践ができるように自己練習する(2時間)。 事後：学生や教員からのコメントをまとめる(1時間)。
15 (木津・吉田)	まとめ	1. 看護技術、対象者に合わせた日常生活援助の自己課題の明確化 2. 自己課題を改善・向上するための対策の整理 3. レポート作成	事前：看護技術の自己の課題を明確にしておく(1時間)。 事後：提出物を準備する(2時間)。

授業科目	栄養サポートチーム論 Theory of Nutrition Support Team			担当教員	岡本 智子、氏家 志乃、看護学科教員		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	
授業目的	栄養サポートチーム(NST)の活動現場を知り、チーム医療連携における専門職としての基本的な知識、技術、態度を学ぶ。						
到達目標	NST活動におけるチーム医療連携の意義を説明できる。 NSTのケアを必要とする対象者に対して管理栄養士として栄養ケアプロセスに則り、栄養アセスメント、栄養計画立案、評価を行うことができる。また、診療録(栄養ケア記録)書けるようになる。 チームとして機能するために、他職種とのコミュニケーションの重要性を理解する。 課題にむけて専門職種間で連携するための役割を理解し行動に結び付けることができる。						
関連科目	開講時までに示す						
テキスト	なし						
参考書	初回授業で紹介する						
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点				
	試験		レポート 40% (岡本 10%・氏家 10%・看護学科教員 10%・10%) 提出物：課題 20% (岡本 5%・氏家 5%・看護学科教員 5%・5%) その他：発表・資料作成・チーム活動 40% (岡本 10%・氏家 10%・看護学科教員 10%・10%)				
	レポート	40					
	小テスト						
	提出物	20					
その他	40						
履修上の留意事項	具体的症例の提示と多職種からのコメントを活かし栄養ケアに活かす						
課題に対するフィードバックの方法	提出物やレポートは翌週の授業時にコメントを付して返却する						
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに具体的事例を示しながら理解を深める。						
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習		
1 (岡本)	チーム医療の理解について1	ガイダンス。チーム医療とは何か。チーム医療における管理栄養士の役割について。他職種の役割について。			事前にシラバスを読んでおく(事前学習1時間)。		
2 (氏家)	栄養サポートチームの活動を理解する1-1	困難症例(糖尿病性腎症)に対する栄養評価と栄養ケア計画を立案し検討をする			事前：配布資料により予習する(2時間)事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)		
3 (岡本)	栄養サポートチームの活動を理解する1-2	グループで困難症例(糖尿病性腎症)に立案した計画の評価と再プランの設定。栄養ケア記録を作成する。発表をするための準備をする。			事前：配布資料により予習する(2時間)事後：授業内容を整理し、まとめる(3時間)		
4 (氏家)	栄養サポートチームの活動を理解する1-3	困難症例(糖尿病性腎症)に症例をまとめ、発表した症例を検討する。教員からのアドバイス。			事前：配布資料により予習する(2時間)事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)		
5 (看護学科教員)	栄養サポートチームの活動を理解する2-1	困難症例(褥瘡・低栄養)に対する栄養評価と栄養ケア計画を立案したものを検討する			事前：配布資料により予習する(2時間)事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)		
6 (看護学科教員)	栄養サポートチームの活動を理解する2-2	困難症例(褥瘡・低栄養)に立案した計画の評価と再プランの設定。栄養ケア記録を作成する。発表をするための準備をする。			事前：配布資料により予習する(2時間)事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(3時間)		
7 (看護学科教員)	栄養サポートチームの活動を理解する2-3	困難症例(褥瘡・低栄養)に症例をまとめ、発表した症例を検討する。			事前：配布資料により予習する(2時間)事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)		
8 (看護学科教員)	症例に基づく栄養管理を学ぶ	発表した症例に対してディスカッション。教員からのアドバイス。			全体を振り返り、レポートをまとめる(2時間)		

授業科目	地域連携ケア論Ⅳ Theory of Community-based Care IV			担当教員	澤田 優美、槌本 浩司、氏家 志乃、小川 克子		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	○
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る多職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して看護師、保健師、管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、4年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を活用しながら、提示された事例が、住み慣れた地域社会で自分らしく生活するために、どのような支援やシステムが必要なのかを具体的に考え、解決策を提示する。その過程で、学生自身が目指す専門職の立場から、どのような役割を担うことができるかについて考察を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活する人々の視点で、事例の生活上、および健康上の課題を明らかにできる。 ・事例の課題解決のために必要な支援や地域ケアシステム・ネットワークについて提言できる。 ・専門職としての多職種連携の在り方を通して、自己の課題を考察できる。 						
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連する。						
テキスト	開講時に提示する						
参考書	開講時に提示する						
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点				
	試験		各回、授業内容に応じた提出物(40%)を予定している。また、目標の達成状況をレポート(60%)する。詳細は授業の中で説明する。				
	レポート	60					
	小テスト						
	提出物	40					
その他							
履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲと一体の科目として学習すること。各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。						
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。						
実務経験を活かした教育内容							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習	
1(澤田)	授業ガイダンス	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲ」の振り返り。地域における生活者の健康課題と健康生活を支える専門職の専門性と役割について				授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には配付資料を確認し、内容を復習すること。	
2(槌本)	地域における生活者の支援Ⅰ	地域における生活者の事例紹介				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	
3(氏家)	地域における生活者の支援Ⅱ	地域における生活者の健康課題の発見についてⅠ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	
4(小川)	地域における生活者の支援Ⅲ	地域における生活者の健康課題の発見についてⅡ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	
5(小川)	地域における生活者の支援Ⅳ	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅠ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	
6(槌本)	地域における生活者の支援Ⅴ	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅡ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (氏家)	地域における生活者の支援 VI	事例が抱える健康課題解決のために必要な支援やシステムについて	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。
8 (澤田)	地域における生活者の支援 VII	専門職としての多職種連携のあり方と事故の課題について	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。

授業科目	公衆衛生看護支援論 II Support Skills for Public Health Nursing II	担当教員	川口 桂嗣、武澤 千尋、安藤 陽子、 作並 亜紀子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	公衆衛生看護支援論Ⅰで学んだ支援技術を踏まえ、個人/家族に対する家庭訪問の実践過程を学ぶ。また、事例検討会を通して、多問題を抱える複雑な事例の対象理解を深め、関係機関や関係職種も含めた課題解決の方法を検討し、関係機関や関係職種の調整等の役割を学ぶ。これらの実践過程を通して、個人/家族、地区/小地域、住民組織/地域組織に対する支援の特徴を理解し、それぞれがもつ力量、特徴を生かした支援の展開を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.個人/家族の健康課題に対する家庭訪問のプロセス（情報収集、計画立案、実施、評価）を理解する。 2.個人/家族の健康課題に対する家庭訪問の支援技術を獲得する。 3.事例検討会の意義を踏まえ、事例検討会にて対象理解を深める。 4.地区/小地域の健康課題に対する集団の健康教育のプロセス（アセスメント、適切な教材の選択と組み合わせ）を理解する。 5.地区/小地域の健康課題に対する集団の健康教育の展開に必要な支援技術を獲得する。 		
関連科目	公衆衛生看護支援論Ⅰ、家族看護学が関連科目である。		
テキスト	中村裕美子他「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 岸恵美子他「保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術」(メヂカルフレンド社)		
参考書	授業の中で必要時に紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		・家庭訪問に関する演習 (45 点) : ①個人/家族のアセスメント、②家庭訪問の計画立案、③個人/家族の主体性を促す関わり、④事例検討会の意義と保健師の役割の視点から評価する。
	レポート	10	
	小テスト		・地区/小地域を対象とした集団の健康教育に関する演習 (45 点) : ①地区/小地域の特性を踏まえた集団のアセスメント、②集団の健康教育事業の立案、③地区/小地域の健康課題に対する支援の実施の視点で評価する。
	提出物	90	
その他		・演習実施後の学びに関するレポート (10 点) : 家庭訪問、事例検討会、集団の健康教育すべての演習を通して、個人/家族、地区/小地域、住民組織/地域組織に対する支援の特徴についてのレポートを作成する。	
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・演習までに、公衆衛生看護支援論Ⅰ、家族看護学の授業で学んだ内容について、演習で活用できるよう自ら学びを深めてください。 ・演習は自らが保健師として実践するための大切な場面です。主体的、積極的に取り組み様にしてください。 ・授業中や授業終了後の生じた疑問の解決は先延ばしにせず、その都度解決できるような行動を心がけましょう。 		
課題に対するフィードバックの方法	家庭訪問や集団を対象とした健康教育のプロセスの段階を踏まえながら学習する。振り返りを行いながら、段階毎にポイントを理解できるように助言を行う。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の実践例を織り交ぜながら説明し、公衆衛生看護の支援方法について体験を通して学ぶことができる様に、できるだけ実践に即した演習を行います。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (川口)	個人/家族、地区/小地域の健康課題解決のための支援の実際	1.本科目のガイダンス 位置づけ、目的、目標、進め方 2.家庭訪問事例の紹介	事前：授業内容をテキストで予習する (1 時間)。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正する (2 時間)。
2 (全担当 教員)	家庭訪問演習①	紙上事例を用いて、対象理解のための家族看護アセスメントを行う。	事前：個人で課題に取り組む (1 時間)。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し修正する (2 時間)。
3 (全担当 教員)	家庭訪問演習②	紙上事例を用いて、対象理解のための家族看護アセスメントを行う。	事前：個人で課題に取り組む (1 時間)。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し修正する (2 時間)。
4 (全担当 教員)	家庭訪問演習③	アセスメントを統合し、個人/家族の全体像を整理する。	事前：個人で課題に取り組む (1 時間)。 事後：授業中に考えた全体像を確認し修正する (2 時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (全担当 教員)	家庭訪問演習④	顕在または潜在する健康課題を明らかにし、優先順位について検討する。	事前：個人で課題に取り組む（1時間）。 事後：授業中に考えた健康課題を確認し修正する（2時間）。
6 (全担当 教員)	家庭訪問演習⑤	家族をひとつの単位として支援目標を設定し、具体的な支援計画を立案する。	事前：個人で課題に取り組む（1時間）。 事後：授業中に立案した支援計画を確認し修正する（2時間）。
7 (全担当 教員)	家庭訪問演習⑥	支援計画に基づいた個人/家族の支援の評価項目・方法・時期を設定する。	事前：個人で課題に取り組む（1時間）。 事後：授業中に立案した支援計画を確認し修正する（2時間）。
8 (全担当 教員)	家庭訪問演習⑦（ロールプレイ準備）	家庭訪問の展開（ロールプレイ）の準備を行う。	事前：家庭訪問の流れ、進め方を確認する（1時間）。 事後：発表練習を行う（2時間）。
9-11 (全担当 教員)	家庭訪問演習⑧⑨⑩	1.保健師役として実際の家庭訪問を展開する。 2.ロールプレイの体験から家庭訪問支援の留意点を学ぶ。	事前：発表練習を行う（1時間）。 事後：発表の振り返りを行い、学びを整理する（2時間）。
12 (全担当 教員)	家庭訪問演習⑪	追加情報を基に、個人/家族が抱える健康課題を再検討し、継続支援の必要性を判断する。	事前：個人で課題に取り組む（1時間）。 事後：事例検討会での検討事項を整理する（2時間）。
13-14 (全担当 教員)	家庭訪問演習⑫⑬	事例検討会を実施し、継続支援の方向性、支援内容を明らかにする。	事前：事例検討会での発表の準備をする（1時間）。 事後：継続家庭訪問の計画を立案する（2時間）。
15 (全担当 教員)	家庭訪問演習⑭	事例検討会での検討を踏まえ、継続家庭訪問の計画を立案する。	事前：継続家庭訪問の計画を立案する（1時間）。 事後：継続家庭訪問の計画を確認し修正する（2時間）。
16 (全担当 教員)	家庭訪問演習⑮まとめ	1.家庭訪問の事例について追加情報の提供 2.今後の演習ガイダンス 目的、進め方	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し修正する（2時間）。
17 (全担当 教員)	集団教育演習①	地区/小地域の人々の生活と健康のアセスメントを行う。	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し修正する（2時間）。
18 (全担当 教員)	集団教育演習②	地区/小地域の発達段階を踏まえ、地区/小地域のニーズを把握し、健康課題を明らかにする。	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し修正する（2時間）。
19 (全担当 教員)	集団教育演習③	グループメンバーのアセスメントを統合し、地区/小地域の健康課題を明らかにする。	事前：課題に対しグループで取り組む（1時間）。 事後：授業中に考えた健康課題を確認し修正する（2時間）。
20 (全担当 教員)	集団教育演習④	グループメンバーのアセスメントを統合し、地区/小地域の健康課題を明らかにする。	事後：地区/小地域のアセスメントと健康課題の再確認と修正（2時間）。
21 (全担当 教員)	集団教育演習⑤	健康教育事業計画を立案する。	事前：課題に対しグループで取り組む（1時間）。 事後：授業中に作成した健康教育事業計画を確認し修正する（2時間）。
22 (全担当 教員)	集団教育演習⑥	地区/小地域への支援目標を設定する。	事前：課題に対しグループで取り組む（1時間）。 事後：授業中に作成した支援目標を確認し修正する（2時間）。
23 (全担当 教員)	集団教育演習⑦	地区/小地域への支援計画を立案し、具体的な集団支援計画（1回分）を立案する。	事前：課題に対しグループで取り組む（1時間）。 事後：授業中に作成した集団支援計画（1回分）を確認し修正する（2時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
24-25 (全担当 教員)	集団教育演習⑧⑨	集団教育で使用する教育教材を作成する。	事前：課題に対しグループで取り 組む（1時間）。 事後：授業中に作成した教育媒体 を確認し修正する（2時間）。
26 (全担当 教員)	集団教育演習⑩	集団健康教育の展開（ロールプレイ）の準備を行う。	事前：集団教育の流れ、進め方を確 認する（1時間）。 事後：発表練習を行う（2時間）。
27-28 (全担当 教員)	集団教育演習⑪⑫	1.対象のメンバー役と保健師役、ロールプレイ観察役を設定し 交互に演じる。 2.ロールプレイの体験から地区/小地域支援の留意点を学ぶ。	事前：発表練習を行う（1時間）。 事後：発表の振り返りを行い、学び を整理する（2時間）。
29 (全担当 教員)	集団教育演習⑬	健康教育事業の評価（プロセス、アウトカム、システム評価） を行う。	事前：グループメンバーの評価を 統合する（1時間）。 事後：グループメンバー間で評価 を検討し整理する（2時間）。
30 (全担当 教員)	演習についてのまとめ	家庭訪問および集団健康教育の演習を通して、個人/家族への 支援から地区/小地域への支援のつながり、さらに地域への支 援への発展についての学びを整理する。	事前：各演習からの学びを整理し、 持参する（1時間） 事後：科目での学びについてレポ ートを作成する（2時間）。

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅰ Public Health Nursing : Practicum Ⅰ	担当教員	近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、川口 桂嗣
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題や課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域社会で生活する個人/家族を公衆衛生看護の対象としてとらえ、家庭訪問の看護過程を通して個人/家族への支援方法・技術を理解できる。 2.共通の健康課題を持つ人々の集団を公衆衛生看護の対象としてとらえ、健康教育の看護過程を通して集団への支援方法・技術を理解できる。 3.地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題解決のために展開される公衆衛生看護活動は、ハイリスク・アプローチやポピュレーション・アプローチ等様々な方法や技術、理論を組み合わせることを理解できる。 4.住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。 		
関連科目	2年次後期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	実習要項に記載	100%	目標到達度を実習の評価基準に沿って評価する。 *実習要項を参照
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された学修内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者及び住民との交流を大切にし、地域の人々の生活の理解に努める。 		
課題に対するフィードバックの方法	実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。学生の学びの状況に応じて、講義や演習で学修した内容を振り返りながら、支援技術の習得を目指す。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解し、実践技術を修得できる様に実習を行う。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1.保健師の同行のもと家庭訪問を行う。 2.集団を対象にして、健康教育の企画・実践・評価の一連のプロセスを体験する。 3.実習地域（施設）で行われる保健活動に参加し、保健師の支援方法について理解する。 4.関係機関、関係職種との会議等に参加し、他職種との連携・調整の実際を体験する。 5.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。 		
実習施設	倶知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および3保健所管内の市町村		

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅱ Public Health Nursing : Practicum II	担当教員	近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、川口 桂嗣
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題や課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域社会で生活する人々および地域社会を公衆衛生看護の対象として理解し、地域で生活する人々および地域社会の健康課題を明らかにすることができる。 2.地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題を解決するための計画や対策を理解できる。 3.地域社会で生活する人々に対する公衆衛生看護活動は、保健・医療・福祉など様々な分野の人々との連携と協働および様々な制度や公的・私的資源を活用し、住民主体の展開が重視されていることを理解できる。 4.健康危機管理における組織的な管理体制やシステム構築の必要性について理解できる。 5.住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。 		
関連科目	2年次後期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	実習要項に記載	100	目標到達度を実習の評価基準に沿って評価する。 *実習要項を参照
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に提示された学修内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者および住民との交流を大切に、地域の人々の生活の理解に努める。 		
課題に対するフィードバックの方法	実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。学生の学びの状況に応じて、講義や演習で学修した内容を振り返りながら、支援技術の習得を目指す。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解し、実践技術を修得できる様に実習を行う。		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1.実習地域のアセスメントを行い、地域の課題を抽出し、実際に取り組まれている健康課題との整合性、解決するための計画や対策を検討する。 2.実習地域の環境を査定しながら、地域の実態にあった保健活動の方法について検討する。 3.地域における健康危機管理施策・体制がどの様に整備され、予防策が講じられているかを知り、予防活動と保健師の役割について考える。 4.地域ケアシステムの果たす役割と地域における保健師のコーディネート機能について考える。 5.公衆衛生看護活動の評価の意義、評価の視点、方法などについて検討する。 6.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。 		
実習施設	倶知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および3保健所管内の市町村		

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅲ Public Health Nursing : Practicum III	担当教員	近藤 明代、武澤 千尋、小川 克子、川口 桂嗣
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	実習	単位数	1単位
ねらい	産業保健分野における労働者の健康の保持・増進活動がどのような組織体系の中で行われているかを理解し、産業保健における保健師の役割を理解する。		
実習目標	1.労働者集団における健康課題の特徴を理解できる。 2.労働者の健康の保持・増進活動がどのように組織体系の中で行われているかを理解する。 3.産業医や衛生管理者等との連携、協働の必要性を理解できる。 4.事業場に所属する保健師の役割を理解できる。 5.外部労働衛生機関における保健師の役割を理解できる。		
関連科目	2年次後期から学習した公衆衛生看護学に関する科目すべて、保健医療福祉行政論 疫学、保健統計Ⅰ・Ⅱ		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	実習要項に記載	100	目標到達度を実習の評価基準に沿って評価する。 *実習要項を参照
履修上の留意事項	・事前に提示された学修内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるように努めること。 ・実習施設では実習指導者をはじめとする関係者および働く人々との交流を大切に、産業に従事する人々の理解に努める。		
課題に対するフィードバックの方法	実習で見学、体験する保健活動を既習の学びと結び付けて考えることができる様に、振り返りを促しながら助言を行う。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに授業を担当した教員と、実際に保健師活動をしている実習指導者が協力し、学生が実習で体験する内容を理解できる様に関わる。		
実習方法	1.産業保健分野における健康支援活動の実際を見学する。 2.健康相談、生活習慣病予防健診、健康測定、医療機関との連携、健康教室、健康診断、個人情報の管理など実数施設で実際の場面があれば見学する。参加できなかった内容については学習課題として取り組み、主体的に指導者の説明を受ける。 3.健康診断の事後措置、事業者や衛生管理者への指導など、産業保健分野の保健師の活動をまとめる。 4.実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。		
実習施設	北海道労働保健管理協会、JR 札幌病院		